

報道各位

---

---

## 2016年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2016年1月5日(火)午前10時30分 TOKYO FMホール～

---

---

株式会社エフエム東京は、2016年1月5日(火)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式を実施し、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。



新年あけましておめでとうございます。

今年、2016年(平成28年)は丙申(ひのえさる)の年だそうで、この年は、今日まで無かった何かが生み出し、新しい時代を生み、将来へ向けて成長する期待が随所にありそうな年、とのことで、何やらいい予感がしておりますが、すべてひた向きの努力が前提のことだと思います。

本年、2016年は、年初から中国・上海市場の急落などの影響で大幅な株安でスタートするなど、波乱の幕開けとなっています。今後、引き続きインバウンド消費が下支えしながら、来年4月に予定されている消費税増税前の駆け込み需要の期待はありながらも、国内需要の力強い牽引役がない中、米国の利上げの影響や、国際情勢の動向により、先の読みにくい1年となるのではないのでしょうか。

情報通信産業においては、多メディア時代を超えて、IoTが益々進展し、あらゆるものがネットに繋がり、メディアの区分やその境が曖昧化し、解放される時代に向かうなど、大きな変革が具現化する年と予想されます。ご存知のように4K、8Kの高画質映像に向かっているTVは、広告付無料動画配信キャッチアップサービスの『TVer』を開始し、ラジオはAMのFM補完放送を開始する中、我々が推進するV-Lowマルチメディア放送『i-dio』が名実共に放送と通信の融合を実現すべく、3月1日に本放送を開始します。そして、TOKYO FM WORLDを出発点として、オーディオ・アドネットワークの構築という新たな時代の変革にチャレンジしていく本年は、当社にとってエポックメイキングな変革を生んでいく、大きなターニングポイントとなる年であります。

これら新たな時代の変革へのチャレンジで重要なことは、我々はチャレンジの提案者や発案者になることに留まることなく、チャレンジを実行し、成功に導く主役になることでもあります。そして、忘れてならないのは、これら変革のベースになるものは、我々が培ってきた、番組コンテンツの独自性の価値を創造する力と開発する力、そしてメディアとして発信する情報の信頼性という本質的価値をさらに育む信念や情熱であるということです。その上で、それらを統合メディア展開の中で活用することによってこそ、変革へのチャレンジが成就されていく、ということを確認しています。

その価値を最大化するためには、我々JFN38局のネットワークとその総合力はかけがえのないものであり、貴重な財産です。キー局としてこのJFNの価値を最優先していく、不変の座標軸が必要です。JFN38局と当社グループ会社と共に心一つにして、新時代の大変革の主役になろうではありませんか。

最後になりますが、組織とは、一人では成し得ないことを実現するために存在するものであります。その中にはビジョンを共有し、共通言語を持って、それぞれが強い信頼関係の下、全力で取り組むことが必要不可欠であります。ありがたい姿、あるべき姿を大いに議論して明確化し、そこに向かって、一人一人が自ら考え、緊密に連携し合って想定以上の成果を上げて行くという、本質の追求と自律的実践をキーワードとしてTOKYO FMの企業文化を創り上げて行きたいと思っております。